



理事会議事録

2006年5月31日、東京都渋谷区の株式会社グルーエージェント事務所にて2006年5月の月例理事会を開催した。19時20分より、栗原傑享(議長)、比嘉康雄、羽生章洋の各理事の参加により議事を進める。

NPO 会員状況の件

栗原より、本日時点での NPO 会員状況について報告があった。議決定数 98 個 会費収入 ¥912,000-である。内訳は、個人会員が 94 人で¥162,000-、団体会員が 4 団体 ¥750,000-。併せて、会員政策についての総論的な議論を行った。議論内容は以下の通りである。

- ・ 会員の位置づけの再確認、特に NPO の社員としての立場についてをサイトトップメッセージなどに掲示すること。
- ・ 会員規約や入会の手続き方法等の掲示が必要なこと、同時に団体会員の入会方法・特典、個人会員の入会方法・特典をそれぞれ企画し、実施していかなければならない。個人向けとしては、Seasar ファウンデーションのステッカーを作り、配るなどの施策を行いたいとした。
- ・ すでに法人としてのアライアンス関係を締結したりしているが、新規の問い合わせ方法やアライアンスの運用について検討実施が必要である。
- ・ 理事会公開化の検討。試みに、来月理事会に Seasar.org 内の各専門チームより参加者を入れて行ってみる。

全件について継続審議が必要であることを、全員一致で確認した。また、規約等の文言面での担当は栗原が、会員施策全体は別項の Seasar.org サイトのリニューアル施策を羽生が担当する中で進めることとする。

プロダクトの件

近況について比嘉より説明があった。Java プロジェクトでは中核を Seasar2、Teeda、Kuina の充実におき、JavaEE5 対応をすすめる。その中、特に標準準拠テストである TCK を取得することを目標として、その認定費用については Seasar ファウンデーションで負担する。全員一致で承認した。

5 月参加イベントの報告

比嘉より JavaOne SF、羽生より OpenSourceRevolution、羽生と栗原よりビジネスショーへの登壇結果について報告した。各イベントともに Seasar ファウンデーションの宣伝にはなったものの、Seasar ファウンデーションおよび中心プロダクトの Seasar2 についての認知度はまだまだ余地があるものとまとめられた。

非主催イベントの件

非主催イベントへの後援・協賛が昨今もとめられることが多くなったことについて、議論を行った。これまでは特に基準を定めることなく、求められるまま承認を行っていたが、今後はイベントの趣旨や活動との関係性を勘案した何らかの後援・協賛基準を設ける必要があるのではないかと結論付けた。後援・協賛基準の制定は今後の継続審議事項とした。



SeasarCon 春の会計報告

栗原より、5月14日に開催された Seasar Conference 2006 Spring (SeasarCon 春) の会計報告が行われた。収支内容は以下の通りである。全員一致で承認した。

[収入の部]		
5/10	サン・マイクロシステムズ協賛金	200,000
5/14	懇親会会費@2000x153	306,000
イベント収入計		506,000
NPO 予算より費用補填		318,611
合計		824,611
[支出の部]		
5/08	東急ハンズ コミッタ用名札	5,407
5/11	飛鳥 Tシャツ x69	76,640
5/12	ビックカメラ ビデオテープ x8	2,440
5/12	キンコーズ 領収書断裁	420
5/12	青巧社 プログラム 540 部	525,000
5/13	オフィスデポ 紙皿・紙コップ	4,833
5/14	キンコーズ コピー出力	616
5/14	カクヤス 酒・つまみ	68,765
5/14	ピザハット ピザ x50	139,860
5/15	飛鳥への銀行振込手数料	630
イベント費用計		824,611

SeasarCon 秋への準備の件

11月12日に開催予定している、Seasar Conference 2006 Autumn (SeasarCon 秋) について、営業、企画、運営各面において検討準備をおこなっていかねばならない。まずは、羽生を担当として SeasarCon 秋運営事務局を設置する。事務局内において SeasarCon 春の評価等も行う。理事会は事務局の評価活動等に必要な情報や検討会への理事参加を通じ協力することとした。事務局の企画検討が一定の成果を出した後、理事会での承認を行うこととする。全員一致で決議した。

情報局設置の件

マーケティングチームの、新村・佐々木・西海より羽生に対して、マーケティングチーム、ドキュメントチームの活動向上のため、統合し、新たに情報局(仮称)を設置したい旨提案があったことを報告された。Seasar.org の WEB マガジン化やすでに大量となった過去のイベント撮影ビデオの配信など、メディア的な活動が Seasar ファウンデーションには期待されていると分析している。企画について承認し、マーケティングチームを中心に案をまとめた後に理事会でも積極審議することと、全員一致で決議した。



以上で議案全部を終了したので、20時45分に閉会した。以上の決議を証するため、出席理事は次に記名押印する。

2006年5月31日

特定非営利活動法人 Seasar ファウンデーション理事会

議長 代表理事 栗原 傑享

理事 比嘉 康雄

理事 羽生 章洋